

書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト中間報告

平成 17 年 4 月 14 日

書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト

1. 書誌ユーティリティの意義と NACSIS-CAT/ILL

書誌ユーティリティとは、図書館ネットワークが国立情報学研究所（NII）のような事業体を基盤とした図書館相互の結びつき全体を示すのに対して、事業体そのものをガスや水道事業(utility)になぞらえて書誌ユーティリティ(bibliographic utility)と呼んでいる。書誌ユーティリティの基本的な機能は、各図書館が独自に作成していた蔵書目録をオンライン接続により参加機関の共同分担目録システムとして総合目録データベースを構築し、ILL(interlibrary loan)を始めとした図書館サービスならびに業務の軽減に利活用することにある。

我が国では、「学術情報システム」として昭和 60 年にスタートした NII(旧学術情報センター、NACSIS)の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)が全国規模で大学図書館を結ぶ唯一の書誌ユーティリティである。現在、NACSIS-CAT/ILLの参加機関数は大学図書館を中心に1,000機関を超え、また、目録データは約750万件が構築され、図書館の業務システムをサポートすると共に我が国の学術情報流通基盤を支えるサービスシステムとして成長した。世界の他の書誌ユーティリティと比較すると、NACSIS-CAT/ILLの特長としては、雑誌の巻号レベルの所蔵を保持している点、目録の多言語対応にいち早く対応した点、ISO-ILLプロトコルによる連携で、世界規模のグローバルILL/DD実現している点などが挙げられる。

2. 本プロジェクトの課題と任務

本プロジェクトは、「国公立大学図書館協力委員会常任幹事会と国立情報学研究所との業務連絡会」の下に設置され、NACSIS-CAT/ILL書誌ユーティリティ全体の中に顕在化してきた以下のような課題状況を解決するために、平成16年度に設置されたものである。

- ・ 重複書誌レコードの頻発に代表される図書ファイルの品質低下
- ・ 雑誌所蔵データ未更新による雑誌ファイルの品質低下
- ・ ILL 謝絶率の上昇等による ILL サービスの品質低下

なお NACSIS-CAT/ILL の詳細な現状については、「目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)の現状と課題」(大学図書館等関連事業説明会 2004 配布資料)で報告されている。
(http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nlw_2004_index.html)

平成 16 年度は、次のような活動を行なった。

NACSIS-CAT/ILL の数値的分析

参加機関の訪問調査

NACSIS-CAT/ILL の現状と問題点の整理・分析

課題解決に向けた提言の検討

現状課題に対する応急策の検討

本中間報告では、平成 16 年度の各活動についての報告を行なうこととしたい。また、平成 17 年夏までに「課題解決に向けた提言」をとりまとめる予定としている。

3. 図書館における NACSIS-CAT/ILL 実態調査

3.1 NACSIS-CAT/ILL 運用状況の数値的分析

本プロジェクトでは、課題解決に向けた検討を行なうための基礎資料として、各参加機関における NACSIS-CAT/ILL 業務状況を、以下の 6 つの指標を持つ「NACSIS-CAT/ILL 業務分析表」として作成し、分析を行なった。

図書書誌重複指数、 図書所蔵追加指数、 雑誌所蔵更新指数

ILL 複写謝絶指数、 ILL 貸借謝絶指数、 ILL 平均所要日数

これにより、NACSIS-CAT/ILL の総体的統計で判明していた書誌ユーティリティ全体としての課題状況を、各参加機関における現場の問題状況として把握し、具体的状況に即した課題解決方法を探るために必要な基礎データになった。また、各指数において顕著な傾向を示す機関に訪問調査を実施した。

3.2 参加機関訪問調査の実施

数値的分析の結果により 15 機関（国立 7、公立 1、私立 7 大学）を選定し、平成 17 年 1 月から 2 月にかけてプロジェクトメンバーの分担による訪問調査を実施した。この訪問調査は、数値的分析による指標結果を、聞き取り調査による現場の状況と照合し、NACSIS-CAT/ILL の現状と問題点について整理・分析するフィールドワーク的作業であった。そしてこのフィールドワークは、次段階の課題解決の方策検討を行なうために必要な基礎的作業として位置付けられるものとなった。なお訪問調査を補完するものとして、電話による聞き取り調査も実施した。

4. NACSIS-CAT/ILL の現状と問題点の整理・分析

調査により判明した、図書館の現場における書誌ユーティリティ運用上の現状と問題点を要約すると、次の通りとなる。

(1) NACSIS-CAT の運用全般

共同構築するデータベースであるという意識が低下し、単に OPAC 用データを作成するためのツールとしてのみ認識している傾向にある。また、レコード調整の煩雑さを避けるために、書誌に間違いを見つけても修正しないことに象徴されるように、データベースの品質を共同維持するという意識が薄れている傾向にある。

その背景には、共同構築に対する意識の希薄化、目録担当者の削減とスキルの低下、目録系業務の低コストでの外注化といった状況があり、全体として全国総合目録構築に図書館の経営資源を投下しない状況があると推測される。

(2) NACSIS-CAT の図書重複書誌

重複書誌作成の背景には、書誌登録前にきちんと検索をするというルールが徹底されておらず、目録データの検索・書誌同定のスキルのない担当者が増えている。

目録系業務を請け負っている業者の品質の差が激しい。例えば、コスト的な側面等から図書館業務の外注仕様書に「図書館業務経験」「司書資格」などのデータベースの品質確保に必要な条件を入れられなかったため、図書館業務未経験者が目録担当として派遣されている例がある。逆に目録担当者・外注業者が努力をして高品質な書誌作成し、全国総合目録構築に多大な貢献をしている図書館に対してはなんらの評価も行われていない。

(3) NACSIS-CAT の雑誌所蔵未更新

過去においては、「学術雑誌総合目録」刊行時に集中的に各図書館で更新作業を行ってきた。

現在はその刊行が中止されたため、従来のような更新体制をとれていない図書館が多い。また、図書館が管理している配架情報等の実態としての雑誌所蔵情報が NACSIS-CAT での所蔵情報の管理方法では対応しづらくなっている側面がある。

(4) NACSIS-ILL の運用全般

従来の図書館間の相互利用と言う理念が綻びを見せ始めている。具体的には、自館からは平均以上の依頼業務は行わぬが、受付は極力受けたくないという傾向にある図書館が国立大学でも少なくない。受付業務を減らすために、サービスステータス（受付の可否）を次のような理由で頻りに切り替えるということが行われている。従って、「館」としてのレンディング・ポリシーが「担当スタッフ」のレンディング・ポリシーなのかという問題を改めて議論する必要がある。

担当者出張、休暇のタイミングで切り替える。

業務多忙時に、依頼業務を優先するため、受付が来ないようにステータスをオフにする。

毎日、業務開始の 9 時にオンにし、業務終了の 17 時にオフにすることをルーティンとしている。

これには、ILL がコストリカバリーベースではないことが多く、ILL 受付に割ける人員（時間・予算）が少ないため、受付件数を抑えることで業務量を調整せざるを得ない背景がある。

(5) NACSIS-ILL のリクエスト謝絶理由

依頼内容が参照不完の状態のものが増えてきている。依頼館で担当者がきちんと調査せず、機械的に依頼をすることが原因と思われる。また、研究室に配架された資料の管理を多くの図書館では行っていないため、所在が不明になっているケースやどこにあるのか探し出せないケースも多く、謝絶せざるを得ない。

5. 課題解決に向けた提言の基本的方向性

実態調査の結果判明した、上記の現状と問題点の共通認識に基づき審議した結果、今後本プロジェクトでは、次のような基本的方向性のもとで継続的に検討を行ない、課題解決に向けた提言をとりまとめることとした。

(1) 新しい NACSIS-CAT/ILL のビジョン・理念の再構築

学術情報流通における NACSIS-CAT/ILL の役割を再評価し、新たなビジョン・理念を打ち出す必要がある。総合目録データベースの維持に関する関心度の低下や NACSIS-ILL サービスステータスの頻繁な変更運用に見られるよう、共同分担・相互利用などに関する価値観が変化していることを踏まえ、NACSIS-CAT/ILL の今後のビジョンを明確にする必要がある。

図書館職員の職業倫理や地位が低下している現在、理念の提示を再度行いプロフェッションの再確立を図る必要がある。ただし、理念の提示だけでは職業倫理や地位を引き上げるには足りないことから、職員のモチベーションを高める方策が必要である。

(2) 図書館評価と新たなビジネスモデルの提示による動機付け

個別の大学の都合・論理を前面に出せない仕組みにする必要がある。各図書館は、自組織の中での地位が相対的に低下してきている。そのため組織経営陣に対してアプローチできる図書館評価（例えば、ある種の強制力の提示や、第三者評価、補助金交付等）が必要となる。

NACSIS-ILL は、新たなビジネスモデルを構築しなおす必要がある。利用料の徴収、貢献に対する対価・評価等で動機付けを図る必要もあろう。

(3) 課題解決のための戦略各論

NACSIS-CAT の課題を解決するための戦略として、現場の目録作成業務で大きな役割を果たしつつある外注業者の位置付け・評価を行なう必要がある。外注・委託による目録作成が一定の水準を保つために、外注・委託に対する標準的な仕様書を提示すること、また標準単価を提示することも検討すべきである。

雑誌所蔵更新作業で大きな障害となっているシステム上の問題を解消するために、再度クライアントシステム及び NACSIS-CAT の要件・評価を行なう必要がある。

6. 現状課題低減化のための応急策検討の提案

本中間報告では、平成 17 年夏に課題解決の提言をとりまとめるまでの間、現状の課題を極力低減化するための当面の応急策検討を提案することとしたい。

(1) NACSIS-CAT/ILL 運用ガイドライン

- ・ 共同構築・相互利用の趣旨を理解せずに、NACSIS-CAT/ILL の運用を行なっている図書館には、その趣旨を改めて周知徹底する。
- ・ 意図的に趣旨に反する運用を行なっている図書館には、何らかの警告を与える。
- ・ 館としての ILL レンディング・ポリシーを確立する。

(2) 外注のための仕様書モデルの提示

- ・ NII が各図書館の外注仕様書を収集し、「外注のための仕様書モデル」を提示する。

(3) 研修の強化と資格・認定制度の提案

- ・ 現行の CAT/ILL の講習会・研修の内容、実施方法を見直し、強化するとともにデータ作成者（外注業者等も含む）に対して資格・認定を与えて品質を維持する制度を検討する。

(4) 図書書誌レコード調整方式の改善

- ・ 現在の図書書誌レコード調整ルールでは、作成館にかかる責任・負担が大きいため、早急に新しい方式の検討を行う。

(5) 雑誌所蔵更新への強制力

- ・ 雑誌所蔵データ更新については、学術雑誌総合目録の冊子体がなくなり、実質的に強制力が働かなくなっているため、期限の設定や更新状況の公表、公文書による更新作業の督促などを実施する。
- ・ 受入継続記号の運用方式についても再検討する。

(6) 図書館評価のための基礎的数値の開示

- ・ 今回作成した「NACSIS-CAT/ILL 業務分析表」は、今後も継続して提供する体制を整備し、図書館管理職が実態を把握できるようにするとともに、各参加機関で自己点検・自己評価の数値として使用できるようにする。

以上

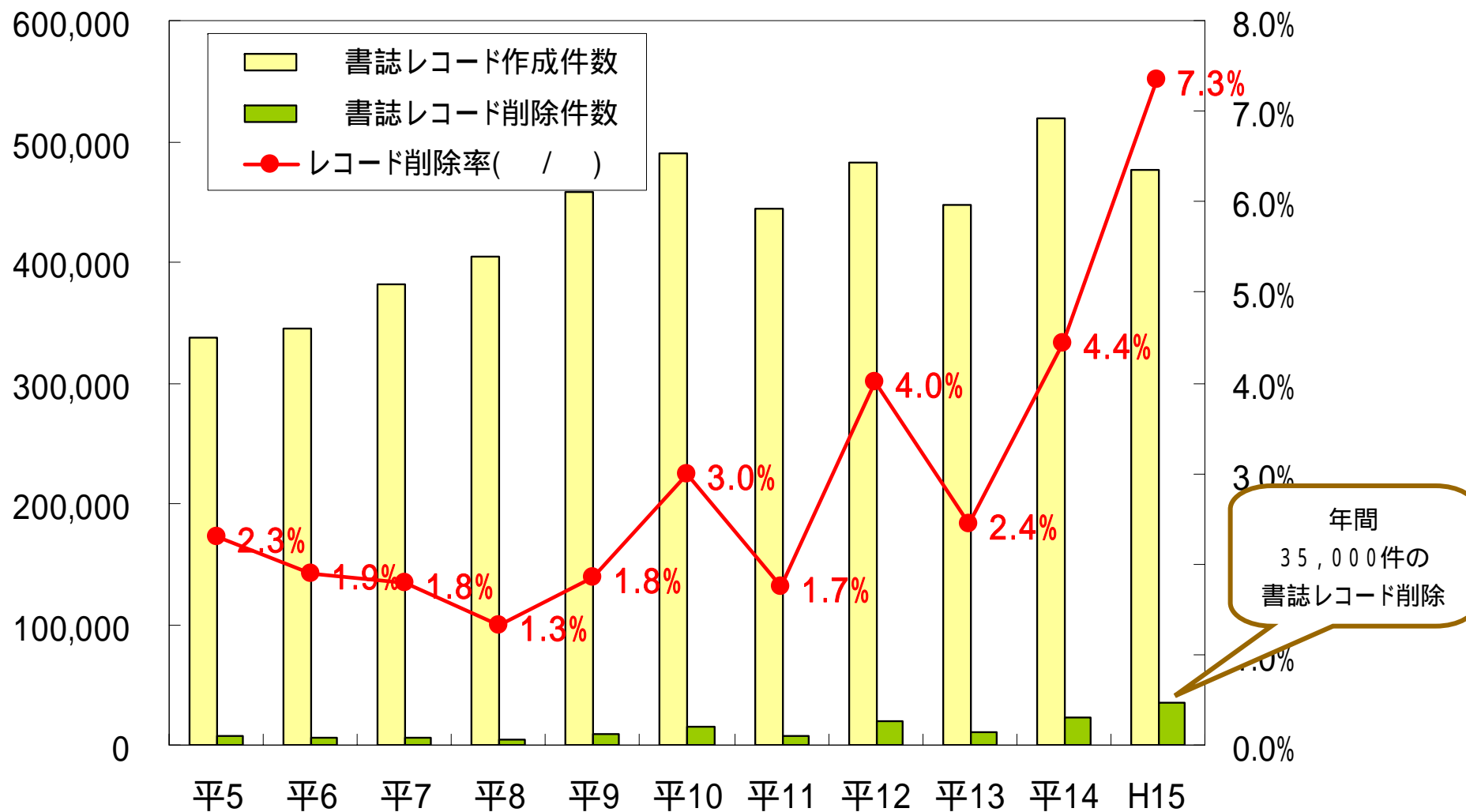
別紙

書誌ユーティリティ課題検討プロジェクトメンバー

	氏名	所属・職名
顧問	宮澤 彰	国立情報学研究所学術研究情報研究系研究主幹
コーディネーター	笹川 郁夫	東京大学附属図書館事務部長
同上	平尾 行蔵	慶應義塾大学メディアセンター本部事務次長
検討メンバー	栃谷 泰文	旭川医科大学教務部図書館情報課長
"	渡邊 俊彦	鹿児島大学附属図書館情報管理課長
"	米澤 誠	東北大学附属図書館総務課情報企画係長
"	佐伯 正	明治大学図書館整理課長
"	中島 操	同志社大学総合情報センター学術情報課 資料管理係長
"	茂出木 理子	国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課 課長補佐
"	鶴澤 和往	国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課 目録情報管理係長
"	荻原 寛	国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課 学術情報サービス係長
"	成澤 めぐみ	国立情報学研究所開発・事業部企画調整課 研修係長

参考資料

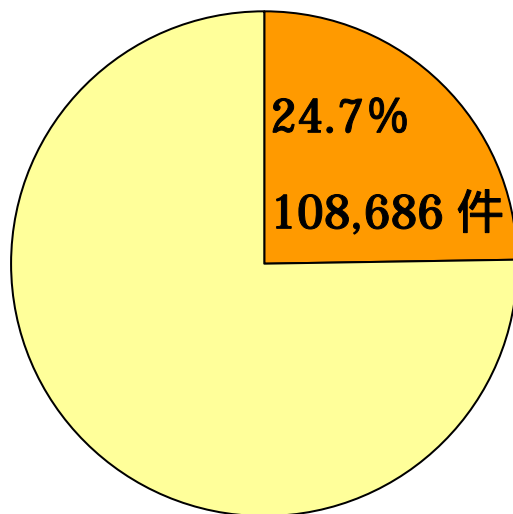
1) 図書書誌レコード新規作成件数と削除件数



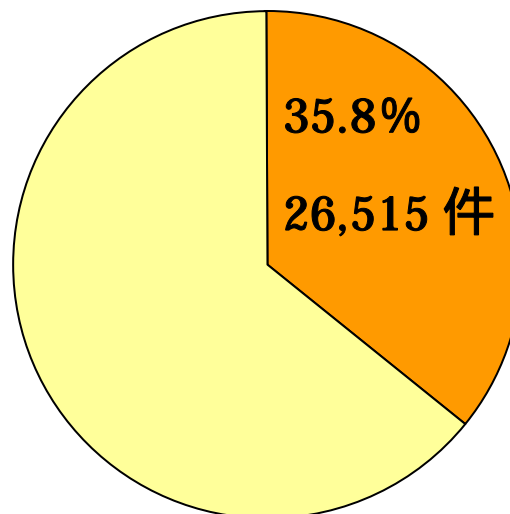
2) 雑誌所蔵レコード 未更新率 (平成16年7月現在)

更新が必要な所蔵データのうち、2002年4月以降更新されていないもの

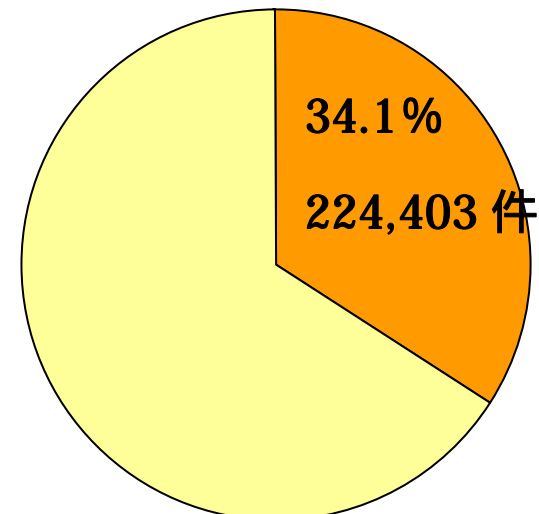
国立大学



公立大学



私立大学



全体	1,279,581件
未更新	403,458件(31.5%)

3) ILL の依頼受付件数と謝絶件数

